



学校だより

札幌市立駒岡小学校
令和6年6月28日
第4号

「？の風船」を膨らませるために

研修部長



「あれ？なんで水のかさがちがうのかな。」

2年生の算数「水のかさ」の学習で子どもたちが首をかしげています。2つの水筒にそれぞれコップ5杯分の水を入れたはずなのに、入っている水の総量が異なります。子どもたちは「同じ5杯分でも元々のコップの大きさが違うからじゃないかな。」「きっと1杯分の水の量が違うんだよ。」と考えを巡らせながら話し合い、実際に試す活動に取り組み、試行錯誤しながら答えを導き出そうと奮闘していました。

駒岡小学校では、このように子どもたちが「あれ？」「どうして？」と感じたり、「こうかもしれない。」と考えたりしながら『？(はてな)の風船』を膨らませることを大切に授業を目指しています。今後子どもたちが歩んでいく世の中は、社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0時代」、先行き不透明な「予測困難（VUCA）な時代」と言われています。そのような時代を力強く生き抜くために、主体的に学び続ける力、自分なりに試行錯誤する力、他者と協働する力が重要であり、それらを育てていくための起点となるのが『？(はてな)の風船』であると考えています。



今年度は子どもたちの『？(はてな)の風船』を膨らませるために、本校の研究として「AAR サイクルを生かした実践」に取り組んでいます。

AAR サイクルとは…Anticipation(見通し)、Action(行動)、Reflection(振り返り)の頭文字をとったものです。

2年生「水のかさ」の学習を AAR サイクルに当てはめると次のようになります。

Anticipation (見通し)	コップ5杯分の水を入れたはずなのに、2つの水筒の大きさが違うことから「どうして水筒の大きさが変わったのかな。」「同じ5杯分でも元々のコップの大きさが違うからじゃないかな。」「きっと1杯分の水の量が違うんだよ。」と自分なりの見通しをもちました。
Action (行動)	どちらの水筒が大きいのかを確認するために、水筒の水をもう片方の水筒に直接移して溢れるか調べたり、同じ大きさの容器に移して水の高さで比べたりと実際に試してみました。そのような活動の中で、「大きいのはわかったけど、どれぐらいちがうのかな。」と新たな「？の風船」が生まれました。2つの水筒の水を入れ替えて線を引いて比べたり、同じコップだといくつ分になるのかを調べたりすることで違いに目を向けました。
Reflection (振り返り)	「自分の考えがもてた。」「水筒の水のかさを比べられた。」と振り返る中で、プールの水のかさを話題に挙げると「プールの水はコップでは比べられないよ。」「水のかさが多いときはどうしたらいいのかな。」と新たな「？の風船」が生まれました。そして、この時間で生まれた「？の風船」が次の学習につながりました。

このような AAR サイクルを生かした授業作りを続けることで、子どもたちが「？の風船」を膨らませながら主体的に学び続ける姿を目指していきます。

